

一般講演 午前部 1

開始時間	第 1 会場		第 2 会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
10:00	1	<p>全面全層播きによる水稲乾田散播栽培の生育と収量 大内昭彦[*]・篠田正彦[*]・在原克之[*]・小山 豊[*] (千葉県農業総合研究センター) 専用の播種機を必要としない全面全層乾田散播により 600kg / 10a 程度の収量が得られた。また、その時の m² 当たり籾数、穂数、幼穂形成期の茎数が明らかになった。今後安定した苗立ち率を得られる播種方法及び覆土方法について検討する。</p>	1 4	<p>水稲品種リーフスターの強稈性に関するリグニンの組成について 大川泰一郎¹⁾・勢登舞奈^{1*)}・加藤 浩²⁾・平沢 正¹⁾ (¹⁾東京農工大学大学院農学府,²⁾作物研究所) 強稈性水稲品種リーフスターの曲げ応力が大きく、少ないリグニン密度でも効率的に曲げ応力が大きくなることには、S・リグニン密度が大きいことが関係する。</p>
10:15	2	<p>水稲有機栽培の米ぬか・くず大豆田面施用による水稲生育と雑草抑制メカニズム 堀内 宜彦[*]・前田 忠信[*] (宇都宮大学附属農場) 米ぬか・くず大豆田面施用により、水稲生育の向上がみられた。雑草抑制メカニズムは、酸化還元電位の低下、抑草物質、ユスリカの増加によるものだと考えられた。</p>	1 5	<p>飼料用水稲長稈品種「リーフスター」の乾物生産および倒伏抵抗性に関する性質 大川泰一郎[*]・安田健一[*]・吉野哲平[*]・本林 隆[*]・平沢 正[*] (東京農工大学大学院農学府) 強稈性長稈品種リーフスターは受光態勢がよく葉面積密度の小さい個体群構造と個葉光合成速度が高く維持されるなどバイオマス生産に関わる有利な特徴をもつ。</p>
10:30	3	<p>水田中耕用除草機の性能と除草効果向上方策 石井博和¹⁾・佐藤正憲²⁾ (¹⁾埼玉農総研 水田農業研究所,²⁾和同産業(株)技術部) 埼玉県の移殖水稲における水田中耕用除草機の適応性と、除草効果向上方策を明らかにした。</p>	1 6	<p>飼料用水稲長稈新系統「関東飼 225 号」の生育およびバイオマス生産特性 大川泰一郎[*]・吉野哲平[*]・安田健一[*]・本林隆[*]・平沢 正[*] (東京農工大学大学院農学府) 水稲新系統関東飼 225 号はタカナリと同様に、個葉光合成速度が大きくそれを高く維持し受光態勢がよいことに加えて、長稈でガス拡散のよい個体群構造をもつ。</p>
10:45	4	<p>水稲種子の発芽に及ぼす浸種日数の影響と浸種効果の持続性 加藤俊一[*] (茨城県農業総合センター農業研究所) 「コシヒカリ」「ゆめひたち」ともに、4 日浸種することで発芽期間を短縮できる。その効果は、浸種後 12 に保存し 13 日後まで期待できる。</p>	1 7	<p>牛糞堆肥を連用した農家圃場における飼料イネ品種「クサホナミ」の生育と収量 石川哲也^{1*)}・草佳那子¹⁾・石田元彦¹⁾・鈴木一好²⁾・染井英夫²⁾ (¹⁾中央農業総合研究センター,²⁾千葉県畜産総合研究センター) 牛糞堆肥 2kg m⁻² を 3 年連用した千葉県旭市の農家圃場で、ロングマット水耕法で育苗した晩生の飼料イネ専用品種「クサホナミ」を移植栽培し、生育と収量を調査した。</p>

一般講演 午前の部 2

開始時間	第 1 会場		第 2 会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
11:00	5	<p>水稲再生紙マルチ直播シート栽培における出芽・苗立ち率について 岡部繭子¹⁾・馬場正¹⁾・亀井雅浩²⁾・陶山一雄¹⁾ (¹⁾東京農業大学農学部,²⁾近畿中国四国農業研究センター) 水稲再生紙マルチ直播シート栽培において、生育初期の鳥獣害が激しい水田では水系設置と播種期の選定によりある程度被害を軽減できることが明らかとなった。</p>	18	<p>水稲新品種「さとじまん」の栽培法 山田良雄[*]・大嶋保夫・北川高弘・久保深雪・中川暁・高橋恭一・松田広子・高野裕一 (神奈川県農業技術センター) 2005年神奈川県で採用された新奨励品種「さとじまん」の栽培時期、栽植密度、追肥の時期及び生育診断のための指標の策定について検討を行った。</p>
11:15	6	<p>水稲減農薬・減化学肥料栽培で微生物種子消毒剤(トリコデルマ・アトロピリデ)を使用した場合の苗の出芽・生育障害の要因 太田和也 (千葉県君津農林振興センター) 微生物水稲種子消毒剤では、苗の出芽・生育に適した育苗管理を行った場合は苗質は問題無いが、不適当な育苗管理を行った場合、化学合成種子消毒剤よりも苗質の低下が顕著であった。</p>	19	<p>登熟期間の気温が紫黒糯水稲「朝紫」の機能性成分と品質におよぼす影響 上野直也[*]・小林真理¹⁾・石井利幸・長坂克彦・加藤知美 (山梨県総合農業技術センター,¹⁾前山梨県総合農業技術センター) 「朝紫」は出穂後11~20日の日平均気温が25以下で経過することにより、アントシアニンを300mg以上含有し、良好な外観品質が得られた。</p>
11:30	7	<p>水稲乾田直播栽培の早期播種における出芽環境と好適苗立ち数 在原克之[*]・小山 豊 (千葉県農業総合研究センター) 2月下旬から3月上旬播種に乾田直播すると、播種期から出芽期までが長くなり、降雨や土壌硬度の影響によって種子の腐敗が発生して出芽率は低下したが、50~60%の出芽率は得られるため、実用可能と考えられた。</p>	20	<p>胴割れ発生程度が異なる水稲品種における登熟初期の胚乳貯蔵物質の蓄積構造 平野春菜^{1*)}・岩澤紀生¹⁾・松田智明¹⁾・長田健二²⁾・新田洋司¹⁾ (¹⁾茨城大農,²⁾東北農業研究センター) 胴割れの発生程度が異なる水稲品種の登熟初期における胚乳貯蔵物質の蓄積構造から、胴割れの発生に関わる構造的要因を検討した。</p>
11:45			21	<p>2005年茨城県産コシヒカリにおける食味関連形質と炊飯米の微細構造 新田洋司¹⁾・玉置あゆみ^{1*)}・松田智明¹⁾・伊能康彦¹⁾・飯田幸彦²⁾・塚本心一郎²⁾ (¹⁾茨城大学農学部,²⁾茨城県農業総合センター) 2005年茨城県産コシヒカリは、精米のタンパク質およびアミロース含有率が低かったうえ、炊飯米が良食味米の構造的特徴を有することが明らかになった。</p>

一般講演 午後の部 1

開始時間	第 1 会場		第 2 会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
15:00	8	<p>Comparison of Growth, Dry Matter Production and Photosynthesis Among Several Old and New Rice Cultivars Grown in Submerged Paddy Field Renante D. Taylaran, Taiichiro Ookawa and Tadashi Hirasawa (Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology) The newly released cultivar Takanari produced significantly higher dry weight and grain yield, accumulated more nitrogen and maintained higher net photosynthesis during ripening compared with old cultivars Aikoku and Sekitori.</p>	2 2	<p>水稻の高温感受性に関する研究 - 出穂期の葉身と穎の温湿度情報の品種間差異 - 芹沢宗一郎¹・松岡延浩¹・野島 博¹・江原宏²・橋本 篤²・田代 亨¹ (¹)千葉大学, (²)三重大学 水稻の高温感受性と水稻の葉身・穎の蒸散に関する生理的特性との関連性の調査を行った。</p>
15:15	9	<p>サイトカイニン散布が水稻葉身の光合成速度に及ぼす影響とその要因 吉田 宰^{1*}・大川泰一郎¹・臼田秀明²・平沢 正¹ (¹)東京農工大学大学院農学府, (²)帝京大学医学部) サイトカイニンにより水稻葉身の光合成速度が促進される要因は主に, Rubisco 含量が高まり炭酸固定効率が高くなることであることが明らかになった。</p>	2 3	<p>極低ポリフェノール大麦系統の精麦及び調理加工特性 内松大輔^{1*}・遠藤好司¹・小池 肇¹・中村和弘²・細野 哲²・上原 泰²・牛山智彦² (¹)株式会社はくばく・(²)長野県農事試験場) 2 次加工調理時の加熱及び保存後の色相変化を評価するため, 炊飯及びブレット調理試験を行った。極低ポリフェノール大麦は, 色相変化が極めて少ないことが確認された。</p>
15:30	1 0	<p>陸稲の登熟期の葉の老化過程における光合成速度と光合成諸過程の推移 平沢 正・吉岡 真澄*・大川泰一郎 (東京農工大学大学院農学府) 老化に伴う光合成速度減少過程における変化を, 炭酸固定効率, RuBP 再生能力みかけの光利用効率, およびクロロフィル蛍光から解析した。</p>	2 4	<p>畑条件で栽培したイネ (<i>Oryza sativa</i> L.) の茎直径, 冠根直径ならびにファイトマーあたり冠根数の品種間差異 加藤洋一郎^{1*}・阿部淳¹・鴨下顕彦²・山岸順子¹ (¹)東京大学大学院農学生命科学研究科, (²)東京大学アジア生物資源環境研究センター) 畑栽培したイネの茎直径, 冠根直径, ファイトマーあたり冠根数には品種間差異があり, それぞれは相互に関連していることが示唆された。</p>
15:45	1 1	<p>水稻における葉の展開中の水ストレスが展開完了後の光合成速度とその機構に及ぼす影響 平沢 正・末吉 知洋*・大川 泰一郎 (東京農工大学大学院農学府) 展開中に水ストレスを受けた葉は, 拡散伝導度と光合成活性の低下によって光合成速度が小さく, 炭酸固定効率, RuBP 再生能力, みかけの光利用効率も低下した。</p>	2 5	<p>異なる土壌水分下における長毛品種 IRAT 109 葉身長毛密度の葉位別変異 和田義春・小松原美央* (宇都宮大学農学部) IRAT109 の長毛性はエージや土壌水分条件により発生が異なった。</p>

一般講演 午後の部 2

開始時間	第 1 会場		第 2 会場	
	講演番号	演題・発表者・所属・要旨	講演番号	演題・発表者・所属・要旨
16:00	1 2	<p>水稲品種ササニシキとハバタキの収量，乾物生産とこれに関わる生理生態的性質の比較 平沢 正・浅沼俊輔[*]・二戸奈央子・大川泰一郎 (東京農工大学大学院農学府) ハバタキはササニシキに比べ実収量が高かった．この要因としてハバタキは収穫指数が高いことに加えて，高い光合成速度を 1 日を通じて維持していることが考えられた．</p>	2 6	<p>直播栽培用もち性品種の収量試験 吉田智彦・大西千尋[*] (宇都宮大学農学部) 直播に適した品種が少ない糯米の湛水直播栽培を想定して，各種交配後代系統の収量，品質を検討した．有望系統としてハタキモチ / IRATI09 とハタキモチ / 夢つくしを選抜した．</p>
16:15	1 3	<p>水稲の光合成速度に関与する形質の遺伝子座の推定 - ササニシキ / ハバタキ染色体断片置換系統を用いて - 平沢正¹⁾・二戸奈央子¹⁾・浅沼俊輔¹⁾・大川泰一郎¹⁾・近藤始彦²⁾・矢野昌裕³⁾・安藤露⁴⁾ (¹⁾東京農工大学大学院農学府，²⁾作物研，³⁾生物研，⁴⁾STAFF 研) ササニシキに比較して光合成速度が 10~20% 高くなる系統があり，第 5，第 11 染色体に光合成速度を高めることに関わる遺伝子座領域があることが推察された．</p>	2 7	<p>Yield Components Variation of NERICA1 and NERICA5 under Upland and Lowland Conditions Ronoubigouwa Ambourou Avaro Michael* and Tomohiko Yoshida (Utsunomiya University) NERICA 品種を畑と水田環境で栽培した．NERICA 1 と NERICA5 は最高の適応性を示した．NERICA 1 と NERICA5 は畑で多収あった．NERICA 1 の収量は Koshihikari の収量より高かった．NERICA 1 は，最も晩生であった．</p>

第3会場		開始時間
講演番号	演題・発表者・所属・要旨	
28	<p>ダイズ「タチナガハ」の晩播栽培における狭畦密植栽培技術の確立 松浦和哉*・櫻村英一・鈴木正明 (茨城県農業総合センター農業研究所) 茨城県において7月中旬以降にダイズ「タチナガハ」を播種する場合、狭畦密植栽培にすることで収量低下を軽減できることが認められた。</p>	10:00
29	<p>株間の変動がダイズの収量および粒径に及ぼす影響 皆川博*・弓野功 (茨城県農業総合センター農業研究所) ダイズは、株間の変動を抑えて定間隔に播種すると、収量および品質が高まる。傾斜回転目皿式播種機を使用することで、ダイズの定間隔播種が可能である。</p>	10:15
30	<p>中国乾燥地における腐植物質の施用がダイズの生育に及ぼす影響 磯田昭弘¹⁾・宮内陽介¹⁾・王培武²⁾ (¹⁾千葉大学園芸学部, ²⁾石河子中亜千旱農業環境研究所) 中国乾燥地で腐植物質の施用によるダイズの生育および収量への影響を検討した。腐植物質の施用により結莢数、莢数、子実収量において増加傾向がみられた。</p>	10:30
31	<p>ワイルドライスにおける栽培上の特性 穴澤拓未*・吉田智彦 (宇都宮大学農学部) ワイルドライスの日本における栽培の可能性を調査するため、生育や収量性、および肥料感応性、除草剤耐性、株分けについて検討した。</p>	10:45

第3会場		開始時間
講演番号	演題・発表者・所属・要旨	
3 2	<p>NaCl を含むバーミキュライトに生育するオオムギの葉の光合成速度の品種間差の解析 佐藤好亮¹⁾・大川泰一郎¹⁾・武田和義²⁾・平沢正¹⁾ (¹⁾東京農工大学大学院農学府, ²⁾岡山大学資源生物科学研究所)</p> <p>NaCl を含むバーミキュライトに生育したオオムギの光合成速度の低下には品種間差があった。光合成速度に品種間差が生じる要因は, NaCl 処理期間が短い時には拡散伝導度の低下程度の違い, NaCl 処理期間が長い時には光合成活性の低下程度の違いが関係していた。</p>	11:00
3 3	<p>Effects of soil moisture depletion during ripening on dry matter production and grain yield in wheat plants grown under conditions of different soil moisture before heading Amirjan Saidi*, Taiichiro Ookawa and Tadashi Hirasawa (Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology)</p> <p>登熟期を無灌水条件で生育すると収量は減少するが, 収量の減少程度は根系の良く発達したコムギは根系の発達の劣るコムギに比較して, 同じ品種でも小さくなる。</p>	11:15
3 4	<p>網走市の異なる土壌タイプの土壌に生育し, 子実収量の異なるコムギの乾物生産と乾物生産過程の解析 中神龍一¹⁾・伊藤博武²⁾・林智仁²⁾・吉田穂積²⁾・大川泰一郎¹⁾・小松輝行²⁾・平沢正¹⁾ (¹⁾東京農工大学大学院農学府, ²⁾東京農業大学生物産業学部)</p> <p>異なる土壌タイプの土壌に生育するコムギの子実収量の違いは, 登熟期, とくに登熟後期の乾物生産量の相違によって生じていた。</p>	11:30
3 5	<p>登熟期の高地下水水位条件がコムギの収量, 乾物生産および生理生態的性質に及ぼす影響 平沢 正・安部 哲朗・大川 泰一郎 (東京農工大学大学院農学府)</p> <p>過湿土壌条件に生育したコムギは, 収量が大きく低下し, これは収穫指数の低下に加えて乾物生産の低下が関係していた。</p>	11:45

第3会場		開始時間
講演番号	演題・発表者・所属・要旨	
36	<p>テオシント <i>Zea Luxurians</i> が持つ根の角度を支配する QTL 大森史恵・間野吉郎[*]・高溝正 (畜産草地研究所) トウモロコシ B73 とテオシント <i>Z. luxurians</i> の交雑 F2 集団を用いて根の角度を支配する遺伝子の QTL 解析を行ったところ、第 2 染色体と第 7 染色体に QTL が見出された。</p>	15:00
37	<p>Transient Expression of Green Fluorescent Protein in Rice Calluses: Optimization of Parameters for Helios Gene Gun Bombardment Nono Carsono^{1*} and Tomohiko Yoshida²⁾ (¹⁾ Tokyo Univ. of agriculture and Technology, ²⁾ Utsunomiya University) Helios 遺伝子銃を用いた稲カルスにおけるグリーン蛍光タンパク質 (GFP) 発現の最適条件は、ヘリウム圧力が 250psi, 金粒子が 0.25mg, plasmid-DNA が 1.5 μg であった。</p>	15:15
38	<p>食用カンナの茎頂培養における茎縦断および TIBA 処理による多芽体の作出 酒井隆成[*]・今井勝 (明治大学農学部) 食用カンナの組織培養において TIBA 処理と茎縦断処理を行ったところ、双方とも通常は発生しないシユートが発生し、大量増殖の可能性が示された。</p>	15:30
39	<p>培養液濃度の速いがオタネニンジンの生育に及ぼす影響 仲澤康治[*]・野島博 (千葉大学自然科学研究科) 自動点滴灌水装置を用いた養液栽培システムで異なる濃度の培養液を与えてオタネニンジンを栽培し、生育に最適な培養液濃度を検討した。</p>	15:45

第3会場		開始時間
講演番号	演題・発表者・所属・要旨	
40	<p>フルボ酸の施用がラッカセイの生育および収量に及ぼす影響 和田美由紀^{1*}・佐藤匡臣²⁾・野島博¹⁾ (¹⁾千葉大学自然科学研究科, ²⁾関東天然瓦斯開発株式会社</p> <p>フルボ酸をラッカセイの生育時期, および濃度を変えて株元に施用した。その結果, 150ppm 濃度の英肥大期施用で莢実重の増加がもたらされた。</p>	16:00
41	<p>異なる灌水量がラッカセイの生長, 乾物生産に及ぼす影響 野島博・宇都弘晃* (千葉大学園芸学部)</p> <p>異なる灌水量がラッカセイの生育, 乾物生産に及ぼす影響を比較し調査した。生育, 蒸発散量, 水ポテンシャル, 全乾物量に有意な差が見られた。</p>	16:15